

学校財政財務活動の具体的展開

～より良い教育環境作りのための事務職員
の連携と財務活動の活性化～

室蘭市立知利別小学校

佐々木敬志

1. はじめに

室蘭市立小中学校事務職員協議会では、毎月一回の定例会を開催し、日常の事務内容について交流や改善を行っています。また、定例会の他にもメーリングリストによる情報交流も行い、事務効率の向上や適正な事務処理を行えるようにしています。定例会の後半には研究協議の時間を設定し、テーマに基づいた研究を進めています。これまでの研究において、文書取り扱いについては事務職員が連携し教育委員会と共同で取り組み、教頭会等も巻き込んで文書取扱要領を策定し、適正な事務執行に役立ててきました。また、備品台帳の検討では、エクセルを用いての電子化に取り組み、学校間はもちろん教育委員会との連絡にもいち早く対応できるようになり、備品の有効活用に寄与することができました。このように日常の実践と遊離しない形で研究を進め、事務職員間連携や学校間連携を行うきっかけともなりました。

平成 21 年度からは、さらに一歩進め、全道協議会で進めている学校間連携についても念頭に置きながら、新たな研究テーマ「より良い教育環境作りのための事務職員の連携と財務活動の活性化」を設定し検討してきました。予算を伴う教育環境の改善については、事務職員が各校の問題点や取り組み、そして改善策等を共有し実践していくことが、各校個々での対応に比べ、より改善の効果が上がり、そして今それが求められていると考えます。

2. 研究の経過

平成 21 年度には、学校間連携として室蘭市で何を取り組めるか等の研究の方向性の検討を行いました。特に、一人職場の弊害を解消するため、多数で知恵を出し合い「共通する課題・問題点」を改善していく連携を探り、一校では解決できない事柄を取りまとめて関係機関に提言できる仕組みを模索しました。平成 22 年度には、①校舎保全（営繕）について ②学校配当予算について ③学校間連携についての三点に渡って調査と改善策の検討を行いました。平成 23 年度には、学校運営予算の中の需用費に的を絞って、学校運営予算の現状や問題点及び改善点を事務職員間連携により市の教育予算の改善につなげることを目的とし活動することにしました。事務職員の連携による財政活動の活性化について、学校における実際の需用費執行状況と市の配当基準との比較検討、本来公費で賄うべき経費の父母負担（教材費等）の実態、学校として節約や無駄を省くべき事項とその方策の検討、事務職員のみならず、教育職員から考える改善要望等の把握と検討などについて研究を進めました。

この研究過程では、まずは「予算要求活動」について検討してきましたが、現在の各自治体が抱える逼迫財政の中で、漠然と予算が足りないと嘆くだけでは新たな予算枠がつかずもなく、要望事項の根拠やその利点、そして数値的な裏付が必要であり、それぞれ各現場での実態や問題点等を共有化し、事務職員間連携による財務活動の実践に結び付ける研究の継続が必要であるという課題が明確になってきました。

3. 研究内容と実践事例～児童生徒用机椅子 の新 JIS 規格への対応事例～

平成 11 年 8 月に JIS 規格が改正され、机の天板のサイズが大きくなるなどの規格変更が行われましたが、室蘭市教育委員会（以下市教委）では全机椅子の新規格への一斉交換は予算措置が難しかったために、旧規格の机の天板のみを新規格に交換することで対応することになり、平成 12 年より新規格の天板が一学年児童分（最初は六年生分）の数が毎年配布され、あわせて、痛んだ椅子の座板や背板を交換できるように配布されました。一方、第 1 期適正配置整備計画による統廃合で平成 15 年に開校した海陽小学校は、規格変更後だったために開校に伴う予算で措置され新製品が導入され、以降の新設校については同様の措置がとられました。

こうして、天板等の配布が始まりましたが、市の財政事情もあり市教委の当初の予定通りには予算措置がされなかったために、配布数も少なく新 JIS 規格への交換は遅々として進まなかったのが当時の状況でした。また、児童生徒数の多寡もあり、実際に作業する用務員の任用形態等の差で各学校での交換状況に差が出てしまい、順調に交換作業が進まない学校や逆に作業が進捗し交換用部品が不足する学校もあつたりと、バラバラな状況が続いていました。その上、市教委の新規格への更新状況や在庫数量の把握が、学級単位での確認だったり号数ごとの総数確認だったり等、学校が抱えている天板・座板・背板の在庫状況や更新の状況が詳細には把握されておらず、有効な配分にならない状況が続いており、学校が計画的に交換可能な数量もある程度限度があるので学校の実情に合った配分をしてほしいという要望も出てきていました。

そこで、平成 24 年度には事務職員協議会の事務局長が窓口となって、市教委と打ち合わせをして各学校が抱えている在庫の確認

を行い、出された在庫状況を全体に周知し、各学校の意見を聞きながら再度年度内に実施可能な実数を出してもらうことにし、配布数の調整を行い市教委に報告しました。

また、平成 25 年度の室蘭西中学校の開校をもって中学校の統廃合が終わることになったので、平成 24 年度中には統合しない中学校にも新規格の机椅子が整備されることになりました。そのため中学校に残っている天板、座板、背板も含めて配布計画を立てることができました。その結果、室蘭市全体の余剰在庫の解消と学校事情に合った配布が行われました。

＜A 小学校の実践例＞

A 小学校（児童数 472 名、19 学級）の当該校区地域は新興住宅地として整備が進み人口と就学児童数が増加し、地域の要望により平成 9 年に B 小学校より分離独立し、児童数 457 名、14 学級として新設されました。室蘭市内では他地域が人口減による統廃合が話題になっており、平成 8 年には第 1 期適正配置整備計画が策定され統廃合が進もうとしている時期でした。これ以降は統廃合による新設のみとなり、児童数増加による分離新設は最後の学校でした。開校時は新 JIS 規格の改定前であったために、児童用机椅子は分離前の B 小学校や他校で使用していた旧規格の机椅子を使うことになりました。

A 小学校においては、平成 23 年度当初の更新状況は、机は 5 年 6 年のみ、椅子は 1 年のみが交換されていたにすぎませんでした。年度内に市教委から天板、座板、背板が配布され、在庫の分と合わせて 4 年の天板と 2 年の背板、座板を中心に交換しても、机の 80%が未整備、椅子の 50%が未整備という状況でした。平成 24 年度からは、事務職員協議会で調整を行うことになったので、1 年

間で作業ができる枚数で希望を出し、中学校の余剰分と市教委から天板等の配布を受け、3年の天板座板背板と5年の座板背板を中心に交換しました。そのように交換作業を進め平成26年度当初にやっと全学年の天板、座板、背板の交換を終えました。

< C小学校の実践例 >

C小学校（児童数386名、14学級）においては、平成20年度当初においては5、6年生の机の天板の交換が終わっているだけの状態でしたが平成26年4月当初には全児童の机の天板、イスの座板・背板の更新が終了しました。長くかかりましたが配当予算、市内学校間調整、統廃合校からの調達でどうにか並の環境を整えることができました。

- ・20年度の実態～イスの破損がひどく、座板や背板の割れ等をガムテープで覆う、または和信フロア等塗料を塗ってささくれ部分を隠す等の対応していました。
- ・平成22年から25年にかけて10校が統廃合されたため、毎年多数の机イスの余剰在庫が出たので状態の良いものを取りに行き本校へ移管。
- ・教育委員会へ要望して天板、座板、背板の現物支給。
- ・年度末等、一般配当予算で購入。
- ・大量の交換のため用務員とともに事務職員も技術習得し共同作業。長期休業中の作業では教頭、一般教諭も一緒に作業。

4. 研究成果と課題

このように机椅子、天板、座板、背板の在庫状況を市内全校に公開することで、市教委経由で行っていた児童生徒の増減による過不足調整も表を見ながら学校間で調整することも可能になり、市教委にとっても学校の状況が伝わることで事務職員との連携も円

滑になり、予算の効率的運用が図れました。この取り組みは、机椅子の一例ではありますが、事務職員間の連携と市教委との連携の成果として、今後のあり方に多いに参考になる実践事例となったと考えております。

しかし、新規格は天板のみではなく全体的にサイズアップしており、旧規格の台座に天板だけを大きくしても、現在の子供達の体型にはそぐわないものであり窮屈さを強いている上、使用年数が長いため老朽化によりフレームの塗装が剥げて錆が出ているものが増えていることもあり、錆などが衣服に付着するなどの弊害も出ています。一方では、統廃合に伴って新製品を使用している小学生や既に整備が済んだ中学生との教育環境の違いも大きく、不公平感を禁じ得ません。教育環境の格差解消のためにも、新製品が全児童生徒にいきわたるよう更に要望していく必要があると考えております。

平成20年度までの市内の研究は、実務の研究を共同で行うことで結果的に事務職員間連携や学校間連携のきっかけとなりました。平成21年度からの研究では、一步踏み込んで事務職員間連携を中心に進めました。その結果、“連携すれば解決できる課題”“連携しなければ解決できない課題”が浮かび上がってきました。特に、児童生徒用机椅子にあっては、事務職員が連携し、教育委員会と共同歩調をとることで、日常最も使用頻度の高い備品の有効活用と改善が図られました。このことは、その後の網戸の改善などにもつながっていきました。今回のような取り組みは何らかの形で今後も続けていくことが必要であり、こうしたことが学校現場における事務職員の貴重な役割、使命になっていくと考えられます。

学校統廃合と机椅子の新規格品導入率

資料

年度	記事	小学校			中学校		
		全学校数	新製品校	新製品化率	全学校数	新製品校	新製品化率
6	室蘭市小中学校適正配置審議会設置						
7							
8	第1期適正配置計画策定						
9	八丁平小学校開校(他校より旧規格)	22	0	0/22	11	0	0
10							
11	日本工業規格(JIS)が8月改正						
12	新規格天板配布開始						
13	旧JIS規格有効期限満了						
14							
15	海陽小学校開校(第1期分)(新規格)	21	1	1/21			
16							
17	第2期適正配置計画策定						
18	星蘭中学校開校(第1期分)(新規格)				10	1	1/10
19	地球岬小学校開校(第1期分)(新規格)	20	2	2/20			
20							
21							
22	旭が丘小学校開校(第2期分)(新規格)	19	3	3/19			
23	翔陽中学校開校(第2期分)(新規格) 武揚小学校へ常盤小学校が編入 第3期適正配置計画策定	18	3	3/18	9	2	2/9
24	桜蘭中学校開校(第2期分)(新規格) 統合未定中学校に新規格購入配備 中学校より天板交換済机を小学校へ				8	6	6/8
25	室蘭西中学校開校(第2期分)(新規格)				7	7	7/7
26							
27	みなと小学校開校(第2期分)(新規格)	16	4	4/16			
28	高平・本輪西小統合予定(第3期)(新規格)	15	5	5/15			
29							
30	陣屋・本室蘭・白鳥台小統合予定(第3期)(新規格)	13	6	6/13			
31							
32	高砂・水元・知利別小統合予定(第3期)(新規格)	11	7	7/11			
32予定	大沢小学校の海陽小学校への編入	10	7	7/10			
32予定	天沢小学校の地球岬小学校への編入	9	7	7/9			